

令和5年度

事業報告書

特定非営利活動法人ゆどうふ

1 事業の成果

【令和5年度総括】

令和5年度を総括すると、新型コロナウイルスが日常生活に与える影響が小さくなり本当の意味で以前の日常生活が戻ってきた感覚をもてるようになった1年であった。とはいえ国際情勢や国内の諸課題は収束を見せず今後のニューノーマルについて明快な展望を抱くことが難しい日々は変わらず続いており、今後の社会の在り方や若者の将来に思いを巡らす機会の多い法人の現場においてもその影響を少なからず感じているところである。そんな中、職員も法人で提供できること、目指す先について対話を重ね、法人設立時に掲げたミッションをもとに事業展開を進めてきた。

・若者支援事業

若者、ひきこもり支援分野においては高齢ひきこもり世帯の増加が社会問題化される一方で、青年期ひきこもりに対する予防支援が立ち遅れ、まさに課題が山積する状況である。令和5年3月の内閣府による調査ではコロナ禍の影響も相まってひきこもり者が増加していることがわかっている(15～64歳で推計約146万人)。国、自治体もさまざまな施策を検討しているが未だ有効なインフラは整備されておらず、多様な若者の権利が尊重され自身の人生を主体的に生きられるという状況には至っていない。インフラとして整備されていないということは現時点において具体的な中長期ビジョンが描きにくいこと、利用する若者や家族、従事する職員に対して継続的に必要な環境を用意することの難しさにつながる。そのような状況下、令和5年度も自治体やさがみはら若者サポートステーションはじめ他関係機関との連携しながら支援実践を展開した。

またかねてより課題であった個別支援担当者の増員の一環として、支援職員2名がアウトリーチ同行を担当した。今後も支援員が適宜個別支援に入る機会を増やしていきたい。

・自己表現サポート事業

アサーション事業については主にワークショップ講師の育成を中心に展開を目指した他、職員会議にて毎回アサーションについて学習する時間を設けることで理解の深化を目指した。音楽事業についてはクラウドファンディングを実施、その寄付金を充当する形で約3年ぶりとなるライブハウスでのイベント興行を行った。

【職員/ボランティア体制】

令和5年2月をもってフリースペースふらっと支援責任者(三井泰平氏)が退職、令和5年度ふらっとは職員3名(中村三樹氏、藤原奈緒子氏、奈良橋修氏)での合同運営の形をとった。音楽部の活動等既存のクラブ活動の他、利用する若者からプログラムの提案がある等新しい展開もみられた。

またボランティアスタッフにおいては、これまで担当していなかった個別対応(Zoomによる面談等)に入ってもらったり、若者と共に地域の講演会に参加する等活動の幅が広がった。年度末に実施した「ボ

ランティア活動報告会」には若者も参加し、発表者になぜボランティアをしようと考えたのか等質問を投げかける場面もみられた。

その他、今年度においてはかつて継続実施していたフットサル交流会の担当者がボランティアとして活動を再開することでフットサル交流会の活動が再開した。

わらしべワークプロジェクトに関しては前年度にひきつづき成沢知紀氏が同事業責任者として地域とのコーディネート等、参加する若者の主体性を活かした取り組みのサポート等事業全般の下支援を行っている。

新たな試みとして財団法人トヨタ財団、独立行政法人医療福祉機構の助成事業の一環として令和6年3月に実行委員による他団体視察として大阪を訪問した。

その他、今年度の取り組みとして、スタッフミーティングの中で通年実施をした「アサーションの時間」があげられる。こちらは法人のミッションを表す根幹概念であるアサーションについて職員全体の理解を深めることを目的とした取り組みであり、隔週で行われているミーティング内の30分を使って、①課題図書の精読と②アサーションに関連した事例の検討を進めた。

活動名	実施時期/回数	参加者	内容
「アサーションの時間」	2回/月 (スタッフミーティング内で毎回30分程度)	職員7名	「自己カウンセリングとアサーションのすすめ」(平木典子著、金子書房)の精読と事例検討
他団体視察	2024年3月30日	5名 (法人職員4名、わらしべ実行委員1名)	大阪PSIカウンセリング、豊中リレーションハウス、ウィークタイ、暮らしづくりネットワーク北芝の見学

【行政連携】

令和5年度においては令和2年度以降委託を受けている町田市保健所本人グループ(マンボウ)、親グループの運営を行なった。前年度にひきつづき、同事業の進め方、事業デザインについて意見交換をしながら進めている。

また町田市における若者・ひきこもり支援のインフラ化を推進すべく令和5年7月より担当課と定期的な意見交換を行った。当法人からは町田市内に常設の居場所設置の必要性を1年通して要請したが実現には至っていない。

一方、前年度アドバイザーとして参加していた「八王子市居場所づくりネットワーク」には今年度もメンバーとして参加、居場所の試験的な開所やひきこもりに関する講演会の企画等に携わった。

【地域連携】

町田市社会福祉協議会主催の「福祉〇ごと相談会」にてひきこもり相談担当としてブースを出したり、さ

がみはら若者サポートステーションとの合同相談会を企画・実施する等関係機関との連携を図った。

活動名	実施時期/回数	参加者	内容
福祉〇ごと相談会 (町田市社会福祉協議会主催)	3 回 (2023 年 5 月 16 日、10 月 20 日、2024 年 3 月 15 日)	町田市社会福祉協議会、堺第 2 高齢者支援センター、堺障がい者支援センター、地域子育て相談センター、愛恵会乳児院ほか	会 場 は 3 回 と も MrMAX 町田多摩境店 各団体がブースを出しての相談対応/チラシ配布
合同相談会	2 回 (2023 年 8 月 29 日、2024 年 2 月 22 日)	14 名 主に町田市、相模原市在住で支援先を探している本人、家族	さがみはら若者サポートステーションとの合同企画。両団体の説明の後、希望者の個別相談に対応。

【事業コンサルティング】

公益財団法人トヨタ財団の助成事業として、事業コンサルを実施した（下図）。

依頼者	実施時期/回数	参加者	内容
NPO 法人アカツキ	【職員】 2023 年 7 月 21 日、 12 月 14 日 【役員】 2023 年 10 月 15 日	永田氏（ファシリテーター、NPO 法人アカツキ） 職員のべ 12 名 役員のべ 5 名	参加者一人ひとりが抱くゆどうふに対する思い、考え、価値観について相互に知り合うワークショップ「ふりかえり評価」を受けた。
海老澤 剛氏 (ハートコンサルティング)	2023 年 11 月～	法人代表	事業全般に対するコンサルティング

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
-------------	------	----	----	-------	---------	---------	---------

ひきこもり状態のご家族に対する支援活動	フリースペース運営等	2023/4/1-2024/3/31 の開所日 (月、水、金、土曜日)	フリースペースふらっと(東京都町田市小山町2595-1)	のべ275名	ゆどうふ利用登録者等、生きづらさを抱えた若者とご家族	のべ430名	1300
ひきこもり状態のご家族に対する支援活動	ひきこもり当事者及びひきこもりの子を抱える親グループ活動指導事業	2023/4/1-2024/3/31 の毎週金曜日、第3火曜日(祝日除く)	町田市保健所中町庁舎、町田市健康福祉会館他	108名	グループ登録者他	167名(当事者109名、親58名)	1504
ひきこもり状態のご家族に対する支援活動	専門サポート事業	2023/4/1-2024/3/31	フリースペースふらっと(東京都町田市小山町2595-1)及び訪問先	491名	ゆどうふ利用登録者等、生きづらさを抱えた若者とご家族	495名	2101
ひきこもり状態のご家族に対する支援活動	わらしべワークプロジェクト	2023/4/1-2024/3/31	町田市小山地区を中心とした市内各地	120名	ゆどうふ利用登録者等、生きづらさを抱えた若者	178名	4235 + 依頼料

自己表現サポート事業	アサーションワークショップ	2024/3/23- 2024/3/24	フリースペースふらっと（東京都町田市小山町2595-1）	2名	アサーションについて関心の方	11名	10
自己表現サポート事業	多文化イベント Youdo!Festival	2024/1/27	スタジオ ACT 町田		東京都、神奈川県にある子ども若者支援団体		0

（２）その他の事業

なし